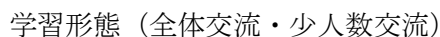


福岡市立香椎東小学校 吉瀬 卓男

香椎東小学校では学校教育目標「基本的生活習慣を身につけ、自ら学ぶ意欲と志をもち、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」を目指し、教育活動を行っている。また、生活科・理科を中心に、平成23年度より「学び合う喜びを実感する生活科・理科学習」をテーマに、子どもが自然や事象に進んで関わり、自分の考えを持ち、その考えを交流し合うことによって学びの成就感や達成感を味わうことができるよう、研究を通して授業改善を行っている。

すことが重要であると考え。それぞれの子どもが作り上げた考えを交流し合うことで、納得や葛藤が生まれ、自分の考えを深化・更新・拡張していくことで見方や考えが高まり、学びの達成感や達成感を味わうことができ、学び合う喜びを実感する姿へとつながると考えている。



〈理 科〉

○ 事象との出会わせ方の工夫

(1) 教材の工夫 (2) 提示するタイミングや場の設定 (3) 発問の工夫 (4) 単元構成の工夫



振り子教材の開発



示温テープの利用



磁石船の実験



教師による発問

○ 交流場面での工夫

(1) 交流の必要性 (2) 発表に生かす書き方・まとめ方 (3) 発問・板書の工夫 (4) 学習形態



板書の統一・工夫



2人（ペア）形態

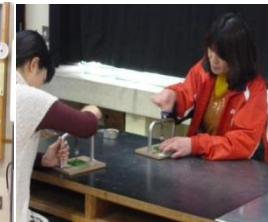


3人形態



4・5人形態

※教職員による教材・教具・指導法の共有（事象提示交流会）



全教職員参加しての交流会，各学年の取り組みを実際に体験し，共有する場を設けた。

実験道具や教材・教具の充実により，実験方法や提示の手段が増えた。また，全学級・全教員による実践発表を行うことができた。予備実験の大切さや教材研究の大切さを実感することができた。

3. 学習環境

科学にふれ，科学が好きな児童を育てるため，校内環境や自由研究の取り組みに力を入れてきた。理科室前の自由研究コーナーや各学年の理科コーナーなど，児童の興味・関心を高めるだけでなく，身近な科学にふれる機会が十分に与えられた。

【校内環境】



2年生（生活科）農事暦



廊下の掲示



自由研究コーナー



学校ビオトープ



校内水田の開発・整備



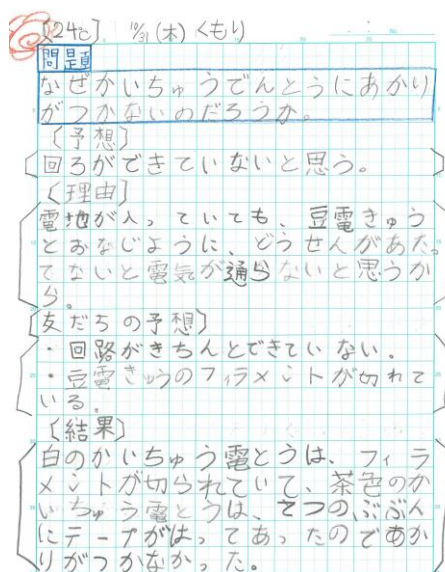
稲刈り等の体験学習

【学習の進め方・ノート指導】

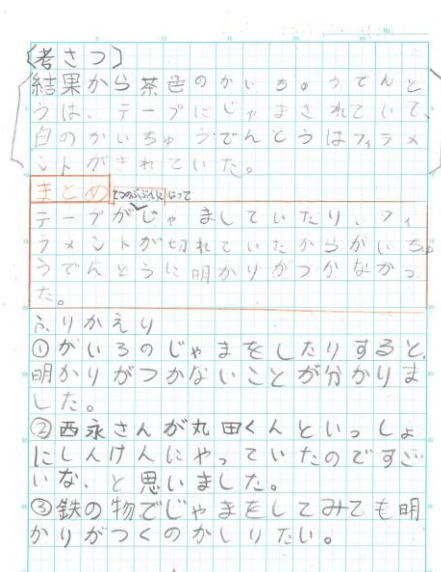


3～6年の全教室で

理科学習の進め方の統一



3年生の児童のノート



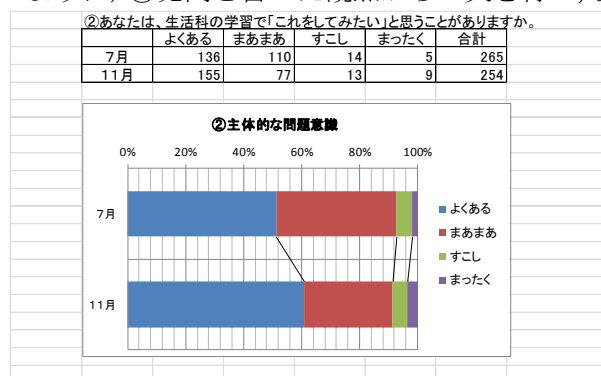
理科・生活科の研究とあわせて、学習の進め方・ノート指導の徹底も図った。問題→予想→理由→結果→考察→まとめ のパターン化したノート指導を行い、見開き1ページにまとめることを繰り返し行った。その結果多くの児童がスムーズに学習を進めることができるようになり、他教科でもノートが充実するなど波及が見られた。

4. 成果と課題

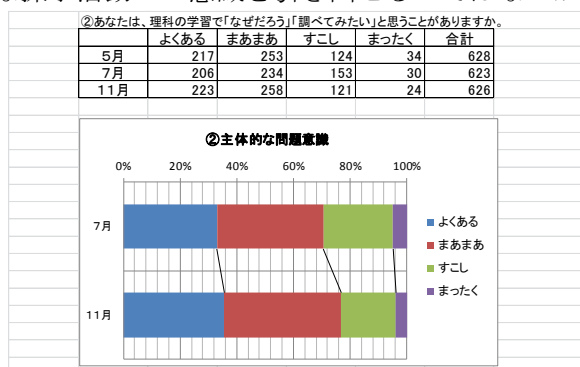
(成果) 自然や事象などの対象に進んで関わり、問題解決に向かって意欲的に活動する中で、自分の考えを持ち、それを互いに交流し合うことによって、互いの良さを認め合う中で、学びの質が高まり、学びの達成感や達成感を味わうことができるようにしたいと考え、生活科では「人・もの・こととの出会わせ方の工夫」、理科では「事象との出会わせ方の工夫」に重点を置いて研究を進めてきた。その中で、以下のことが成果として挙げられる。

《事象提示の工夫》

まず学び合う喜びを実感するには、児童が自分の考えを持ち、主体的な探究活動をする必要がある。そこで、一単位時間の導入などで、児童の「なぜだろう」「見たい・聞きたい」「やってみたい」といった興味・関心・疑問・意欲を引き出すような事象と出会わせる。その事象を①教材や教具②提示の方法（いつ・どこで・どのように）③発問と言った観点から工夫を行い、主体的な探求活動への意識を引き出せるのではないかと考えた。



生活科の学習で「これをしてみたい」と
思うことがありますか。

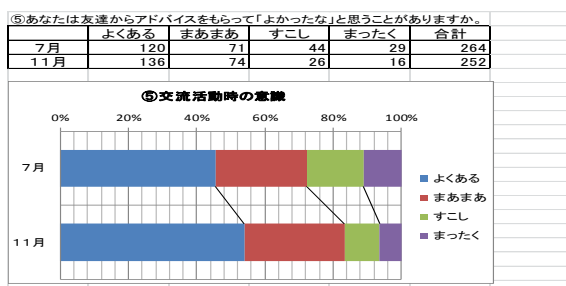


理科の学習で「なぜだろう」「調べてみたい」と
思うことがありますか。

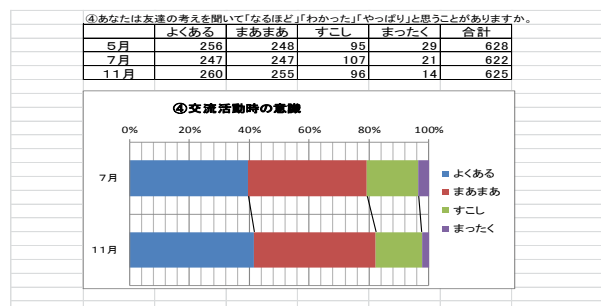
児童の意識調査からも、主体的な問題意識が生活科では「これをしてみたい」と思うことが「よくある」と答える子は51%から61%へ、理科では「なぜだろう」「調べてみたい」と思うことが「ある」と答えた子は75%から77%へと向上が見られた。児童の意識調査の変容からも、事象提示の工夫は有効であったと言える。

《交流場面での工夫》

自分の考えを持つだけでは「気づきの高まり」や「科学的な見方・考え方の獲得」は出来ない。そこで、しっかりと自分の考えを持った上で、交流させていく必要がある。この、交流場面では、目的にあった効果的な教師の手立てが必要になる。この手立てとは、①交流の必要性②内容③発問・板書④学習形態⑤環境や道具などの工夫であると考えた。



あなたは友達からアドバイスをもらって
「よかったな」と思うことがありますか。



あなたは友達のことを聞いて「なるほど」「わかった」「やっぱり」と
思うことがありますか。

児童の意識調査から、全体交流時の意識が生活科では72%から83%へ、理科では80%から82%へ、向上している。以上のことから、単元や学年によって手立ては異なるものの、お互いを意識し、認め合う姿へと近づいたと言える。

《教師の意識》

全学級での実践と児童の姿の見取りより、どの教師も事象提示についての価値を見いだしていた。また、他学年の教材・教具を交流する機会をとったことで、次年度以降へもつながっていくものとなった。

（課題）事象との出会わせ方の工夫をすることによって、児童の興味・関心・追究意欲を高めることはできたが、児童が課題を自らのものとし、より主体的に取り組む姿を追求していきたい。児童の生活実態や経験をもとにした事象と出会わせるなど、さらなる授業構成の工夫と研究を行っていきたい。